

高等学 校

平成 2 7 年度

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	3
III	研究の仮説	4
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	5
VI	研究の成果	21
VII	今後の課題	23

<b>研究主題</b>	<b>よりよい解を導く対話の力と、課題を発見する力を育む 指導の在り方</b>
-------------	---

## I 研究主題設定の理由

### 1 学習指導における現状と課題

#### (1) 次期学習指導要領

中央教育審議会では、「初等中等教育における教育課程の在り方について（諮問）」（文部科学省 平成 26 年 11 月 20 日）を受け、現在、次期学習指導要領に向けた改訂の検討が進められている。平成 27 年 8 月に公表された「教育課程企画特別部会論点整理」を見ると、「将来の変化を予測することが困難な時代」を生きるこれからの子供たちは、「社会の変化に受身で対処するのではなく、主体的に関わり合い」、「社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していく」ことが求められるという考えが示されている。

そして、これらの力を子供たちに育むための学習指導要領の改訂に向けて、学習のプロセス等の重要性を踏まえた検討が必要だとされ、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」いわゆる「アクティブ・ラーニング」の意義が述べられている。

#### (2) 21 世紀型能力

「諮問」に先立ち、「教育課程の編成に関する基礎的研究報告書 5 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」（国立教育政策研究所 平成 25 年 3 月）では、新しい時代を生き抜く力を「21 世紀型能力」と名付けて提案している。

「21 世紀型能力」は「一人一人が自ら学び判断し自分の考えをもって、他者と話し合い、考えを比較・吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し、更に次の問いを見付ける力」である「思考力」を中核とし、その「思考力」を支える「基礎力」として、「言語、数、情報（ICT）を目的に応じて道具として使いこなすスキル」を位置付けている。また、「思考力」の使い方を方向付ける「実践力」として、「日常生活や社会、環境の中に問題を見付け出し、自分の知識を総動員して、自分やコミュニティ、社会にとって価値のある解を導くことができる力、更に解を社会に発信し協調的に吟味することを通して他者や社会の重要性を感得できる力」を位置付け、「基礎力」が「思考力」を支え、「思考力」の向かう先を「実践力」がガイドするという能力の概念を提示している。

#### (3) 高等学校部会共通テーマ

高等学校は、中学校卒業後の約 98%の者が進学し、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付ける初等中等教育の最後の教育機関である。高等学校において、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な力である、「21 世紀型能力」を育成する指導の在り方について研究することは喫緊の課題である。

そこで、高等学校各部会の共通テーマを「『思考力』、『基礎力』、『実践力』を育むための、

主体的・協働的な学習の指導の在り方」とし、研究を行うこととした。

## 2 国語の学習指導における現状と課題

### (1) 「21世紀型能力」を構成する言語の力について

まず、「21世紀型能力」を構成する「思考力」、「基礎力」、「実践力」における言語の力を定義付ける必要があると考え、国立教育政策研究所の報告書などを基に協議した。

グローバル化や情報化が一層進み、変化が速く将来の予測が困難な時代においては、異なる文化的背景をもつ者が協働して課題を解決しながら、持続可能な社会を形成していかなければならない。言語の力は、異なる文化的背景をもつ者、価値観の共有が困難な者同士がチームとしてよりよい解を見いだすための合意形成のツールであると考えた。

このことを踏まえ、国語における「思考力」、「基礎力」、「実践力」を次のように定義した。

- 思考力：問題解決のために、言語を通して考えを比較・吟味するとともに論理的・批判的思考力を発揮しながら自分の認識を修正し、よりよい解を導く力
- 基礎力：他者と協働し、目的・場・相手に応じて適切に情報を発信及び受容するとともに、よりよい解を求めて根拠を基に対話したり思考したりする言語の力
- 実践力：持続可能な未来への責任と課題を自覚し、言語の力を用いて協調的に解決を図ろうとする力

### (2) 生徒の現状について

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果を見ると、よりよい解を求めて合意形成を図る上で必要な技能である「話すこと・聞くこと」について、中学生の現状として次の2点を挙げている。

- ・相手の反応を踏まえて話すことは、相当数の生徒ができています。
- ・聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話すことに課題がある。

また、東京都教育委員会が実施した平成26年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」における中学校国語の結果を見ると、グループの話合いの場面に関する問題について次のような傾向を挙げている。

- ・話合いの話題や方向を的確に捉えることができるかをみる問題の正答率が高い。
- ・複数の情報を整理してまとめる力や、中心となる話題について話合いを深めたり相手から情報を引き出したりする力が十分ではない。

以上の調査の結果からは、他者との対話が必要な場面において、場の雰囲気に合わせてことには長けているが、相手によりよく伝えようとする意識や、話合いを深めようとする意識が低いことがうかがえる。

また、本部会部員の日頃の生徒観察から、次のような現状が挙げられた。

- ・概して受け身で、課題意識が不十分である。
- ・グループで合意形成を図るより、誰かから正解を与えられることを求める傾向が強い。
- ・生まれたときからコンピューターや携帯電話に囲まれて育っており、対人コミュニケーションの力が十分ではない。
- ・メール、ブログ、無料通話アプリ等のソーシャルメディアに見られる、一方的な表現に

慣れているため、他者の意見をじっくり聞き、自分の考えに生かそうという意識が低い。

### (3) 高校部会テーマにおける現状と課題について

前述の「(2) 生徒の現状について」のような生徒の現状に鑑みて、高等学校国語部会では、次のように現状と課題を整理した。

#### ア 現状

- 課題意識をもって主体的に考える意欲が乏しく、与えられた課題に対して安易に正解を求める傾向がある。
- 表現が感覚的であったり、定型化されたものであったりする。また、自分の考えに執着し、他者の意見を受容する姿勢が乏しい。

#### イ 課題

- 自ら課題を見だし、主体的に課題解決を行う学習活動を充実させる必要がある。
- 他者と協働し、チームとしてよりよい解を導き出す学習活動を充実させる必要がある。

### 3 高等学校国語部会の主題について

これまでに述べてきたような、学習指導の現状や生徒の現状に鑑みて、高等学校国語の学習指導における課題の解決に向けた指導の在り方を研究するため、本研究では「よりよい解を導く対話の力と、課題を発見する力を育む指導の在り方」を研究主題とした。

## Ⅱ 研究の視点

### 1 高等学校国語の現状を踏まえた研究

前述の「教育課程企画特別部会論点整理」では、高等学校国語の現状として次の4点を挙げている。

- ・教材の読み取りが中心になりがちで、国語による主体的な表現等が重視されていない。
- ・話し合いや論述など、「話す・聞く」「書く」ための学習が十分行われていない。
- ・古典の学習について、日本人として大切にしてきた文化を現代に生かそうという観点が弱く、生徒の興味を高める指導が十分行われていない。
- ・情報活用能力という観点から、映像も含む多様なメディア表現から情報を読み取り、表現していく力を身に付けさせる必要がある。

これらの現状を踏まえ、本部会テーマに沿って研究を進めるに当たり、「話すこと・聞くこと」の指導の在り方について研究を行うことが必要であると考えた。また、教材選定の際には、情報活用能力、古典を現代に生かすなどの観点についても考慮することとした。

### 2 主体的・協働的な学習について

高校部会の共通テーマに位置付けられた「主体的・協働的な学習」、いわゆる「アクティブ・ラーニング」は、学び方を総合的に表した用語であり、「アクティブ・ラーニング」と呼ばれる多種多様な学習方法・学習形態について研究し、それぞれの趣旨を理解し、必要な力を身に付けるために最適な具体的方法を探る必要がある。

### Ⅲ 研究の仮説

本研究の研究主題を踏まえ、次のような仮説を設定した。

- ① 自己の考えを発信するとともに相手の意見を聞き、よりよい解を求めて合意を図る学習活動を行うことで、対話する力を身に付けることができる。
- ② 自己の思考の流れを振り返り、評価する学習活動を行うことで、新たな課題を発見する力を身に付けることができる。

### Ⅳ 研究の方法

仮説を検証するため、次のような方法で研究を行う。

#### 1 学習活動の設定

- 「話すこと・聞くこと」の単元を設定し、課題を解決するためにグループで合意形成が必要となる学習活動を行う。
- 課題に対して様々な角度から情報や意見をもち寄り、協働して解決する学習活動を行う。
- 学習活動の到達目標を示し、振り返りと対話を通じて新たな課題を発見する学習を行う。

#### 2 具体的方策

「話すこと・聞くこと」の単元として、「古典を通して現代を探る」というテーマのもとで学習課題を設定することとした。また、対話する力を育むために、対話を人工的に生み出す知識構成型ジグソー法を用い、情報差のある者がグループを構成して課題解決を行う指導計画を立てた。学習課題を解決するために必要な、古人や現代人のものの見方、感じ方、考え方が書かれた数種類の資料を教員が準備し、4人から5人の小グループに分かれ、各グループ1種類の資料から読み取れることについて話し合うエキスパート活動を行った後に、ジグソー活動を行う。ジグソー活動では、それぞれの学習者がエキスパート活動で話し合った内容を伝え合い、学習課題に対するよりよい回答について話し合う学習を行う。

さらに、授業の初めに到達目標を示した上で、授業の最後に学習過程の振り返り、到達目標に基づく評価及び自己の振り返りをもち寄ったグループ学習を行い、次への目標と目標達成に向けた課題意識をもたせる学習を行うこととした。

#### 3 検証方法

- 事前・事後のアンケート調査を行い、生徒の変容を検証する。
- 評価指標を作成して事前に提示し、合意形成に向けて対話する力を検証する。
- 新たな課題への気付きを見取るワークシートを作成し、課題を発見する力を検証する。

#### 4 教材

検証授業を行うに当たって、教材については、古典などに表れた、ものの見方、感じ方、考え方に触れ、それらと現代人のものの見方、感じ方、考え方を比較・吟味し、よりよい解を導き出すことができる教材の選定や資料提示を行うこととした。

## V 研究の内容

### 1 研究構想

全体テーマ **思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善**

高校部会テーマ **「思考力」、「基礎力」、「実践力」を育むための、主体的・協働的な学習の指導の在り方**

#### 各教科等における「思考力」、「基礎力」、「実践力」の定義

##### 思考力

問題解決のために、言語を通して考えを比較・吟味するとともに論理的・批判的思考力を発揮しながら自分の認識を修正し、よりよい解を導く力

##### 基礎力

他者と協働し、目的・場・相手に応じて適切に情報を発信及び受容するとともに、よりよい解を求めて根拠を基に対話したり思考したりする言語の力

##### 実践力

持続可能な未来への責任と課題を自覚し、言語の力を用いて協調的に解決を図ろうとする力

#### 高校部会テーマにおける現状と課題

##### 現状

- 課題意識をもって主体的に考える意欲が乏しく、与えられた課題に対して安易に正解を求める傾向がある。
- 表現が感覚的であったり、定型化されたものであったりする。また、自分の考えに執着し、他者の意見を受容する姿勢が乏しい。

##### 課題

- 自ら課題を見だし、主体的に課題解決を行う学習活動を充実させる必要がある。
- 他者と協働し、チームとしてのよりよい解を導き出す学習活動を充実させる必要がある。

### 高等学校国語部会主題

#### よりよい解を導く対話の力と、課題を発見する力を育む指導の在り方

##### 仮説

- 自己の考えを発信するとともに相手の意見を聞き、よりよい解を求めて合意を図る学習活動を行うことで、対話する力を身に付けることができる。
- 自己の思考の流れを振り返り、評価する学習活動を行うことで、新たな課題を発見する力を身に付けることができる。

##### 具体的方策

- 「話すこと・聞くこと」の単元を設定し、課題を解決するためにグループで合意形成が必要となる学習活動を行う。
- 課題に対して様々な角度から情報や意見をもち寄り、協働して解決する学習活動を行う。
- 学習活動の到達目標を示し、振り返りと対話を通じて新たな課題を発見する学習を行う。

##### 検証方法

- 事前・事後のアンケート調査を行い、生徒の変容を検証する。
- 評価指標を作成して事前に提示し、合意形成に向けて対話する力を検証する。
- 新たな課題への気付きを見取るワークシートを作成し、課題を発見する力を検証する。

## (1) 実践事例 1

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	1
-----	----	-----	------	----	---

### 1 単元（題材）名、使用教材

単元名 古典を通して、現代を探る

教材名 『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」、『かぐや姫の物語』（映画作品、スタジオジブリ）

### 2 単元（題材）の指導目標

- ・『竹取物語』と、映画作品との差異を基に、映画制作者の脚色の意図を考える。
- ・対話を通して、考えを比較・吟味し、脚色の意図について、よりよい解を導き出す。
- ・導き出した脚色の意図に対する解を基に、現代について考察を深める。

### 3 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く	オ 知識・理解
・グループでの話し合い活動に進んで参加し、自分と他人の考えを比較しながら、よりよい解を見付けようとしている。	・情報や知識を共有していない相手に、分かりやすく伝えている。 ・相手の話に関心を示すと同時に、メモを取りながら聞いている。	・原作と映画版との描かれ方の違いについて理解している。 ・時代背景や常識について理解を深めている。 ・現代について考えをめぐらしている。

### 4 単元（題材）の指導と評価の計画（3時間扱い）

次	学習活動	評価の観点			評価規準 〈評価方法など〉
		関	話聞	知	
第1次	・現代語訳を基に、『竹取物語』について学ぶ。 ・映画作品『かぐや姫の物語』を鑑賞し、原作の現代語訳と対照させ、描かれ方の異同について考える。			●	・原作と映画版との描かれ方の違いについて理解している。 〈記述の確認（ワークシート）〉
第2次 （本時）	[エキスパート活動] ・配布された、『かぐや姫の物語』の制作にあたって描き直された場面に関する資料を基に、脚色の意図についてグループで意見交換を行う。 [ジグソー活動] ・グループで話し合った内容を別のグループの生徒に説明し、内容を共有する。 ・「制作者が描き出そうとした現代像」について、対話を通して解を導き出す。	●	●	●	・グループでの話し合い活動に進んで参加し、自分と他人の考えを比較しながら、よりよい解を見付けようとしている。 〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉 ・情報や知識を共有していない相手に、分かりやすく伝えている。 〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉 ・相手の話に関心を示すと同時に、メモを取りながら聞いている。 〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉
第3次	[振り返り] ・各班でまとめた内容を共有する。 ・活動を振り返るアンケート調査に回答する。			● ●	・時代背景や常識について理解を深めている。 〈記述の分析（ワークシート）〉 ・現代について考えをめぐらしている。 〈記述の分析（ワークシート）〉



配布資料(資料①)



5 本時 (第2次)

(1) 本時の目標

- ・ 古典作品を通じて、現代を見つめる。
- ・ 映画作品の脚色の意図について、グループで話し合い、考えを比較・吟味する。
- ・ 脚色された内容を基に、制作者が描こうとした現代像について、対話を通して考察を深める。

(2) 配布資料

資料①「駆け回るかぐや姫」、資料②「かぐや姫が月に帰りたいくない理由」、資料③「かぐや姫と帝との交情」、資料④「かぐや姫の人柄」

(3) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準〈方法〉
導入	5分	・本時の学習の目標と流れを理解する。	・評価指標を配布し、学習の到達目標を確認する。	
展開①	20分	[エキスパート活動] ・グループ別に着席する。 ・原作と映画の描かれ方の違いから読み取れる「制作者の脚色の意図」について話し合うことを理解する。 ・配布された資料ごとに、「脚色の意図」に関する意見を交流し、考えを深める。	・次のジグソー活動におけるエキスパート活動の意義を生徒一人一人に意識させる。	ア〈行動の観察、記述の分析(ワークシート)〉 イ〈行動の観察、記述の分析(ワークシート)〉
展開②	20分	[ジグソー活動] ・グループ替えを行う。 ・それぞれ異なる資料でエキスパート活動を行った生徒同士がグループを構成し、資料の説明を行う。 ・グループとしての「現代像」をまとめる。 ・話し合った内容を発表する。	・各グループの位置を板書し、速やかに移動させる。 ・他のメンバーが「何も知らない状態である」ことを意識して説明するよう促す。  ・幅広く活動の成果を共有できるよう留意する。	ア〈行動の観察、記述の分析(ワークシート)〉 イ〈行動の観察、記述の分析(ワークシート)〉
まとめ	5分	・振り返りシートで、自己の取組や達成度を自己評価する。		

(4) 評価指標

	A	B	C
聞く	相手の考えと自分の考えを照らし合わせ、お互いの考えの相違点や共通点を確認しながら聞くことができる。	相手の発言の大事な部分を意識し、メモを取りながら聞くことができる。	相手が話しやすいように、関心を示しながら、積極的に聞くことができる。

話す	共有していない情報を、相手の反応に応じて、言葉、スピード、表情などを調整しながら話すことができる。	共有していない情報の要点を、取捨選択したり強調したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	メモを基に、伝えるべき情報を相手に伝えることができる。
話し合う	お互いの考えを比較対照することで、考えを発展させることができる。	他の人の考えに触れることで、新たな発見をすることができる。	自分が考えたことを、話し合いの場で伝えることができる。

## 6 本時の振り返り

### (1) 前時までの学習活動

第1次として、映画『かぐや姫の物語』を鑑賞し、原作と異なる場面があることを確認する。その後、異なる場面と原作を対比させた4種類の資料を配布し内容の確認を行った。

### (2) 本時

#### ア エキスパート活動

『竹取物語』と映画『かぐや姫の物語』の違いが分かる4種類の資料を基に、各資料のエキスパートグループにおいて映画制作者による脚色の意図について話し合うエキスパート活動を行った。

#### イ ジグソー活動

各資料から読み取れる脚色の意図を共有し、映画制作者が描こうとした現代像について話し合った。

ワークシートに記入された話し合いの内容を見ると、映画版で描かれている「高貴の姫君」としての振る舞いや生活を強いられ次第に自我が抑圧されていく場面や、人間らしく感受性豊かに生きることを渴望する場面に触れ、次のような「現代像」を挙げている。

- ・「好きなものを好きと言える時代」
- ・「人と人が分かり合える時代」
- ・自分の感情を誰かに伝えることで何かが変わることもある。その意味でコミュニケーションが大切な時代。
- ・昔より、自由で平等になった。

根拠に欠ける部分はあるが、生徒ならではの発想と生徒ならではの言葉でまとめられており、多角的な視点を獲得できているものと思われる。

現在、自分たちが当然だと思っている常識とは異なる常識が存在する時代があったことを知り、その時代を生きる人間の感情を想像する機会になったと考える。時代を相対的に見つめる視点をもつことは、新しい時代を考えていく力につながっていくのではないかと考える。

#### ウ 自己評価

事前に示した評価指標に基づき、授業の最後に各自で学習活動を振り返り、自己評価を行った。

##### (ア) 「聞く」ことについて

「大事な部分を意識する」B評価が46%、「自分の考えと照らし合わせることを意識する」A評価が31%と、高い到達度を自覚できている。授業時の生徒の様子からも、相

手の意見に関心を示しながら話し合いを進めている姿が見られた。

(イ) 「話す」ことについて

約半数にあたる 48%の生徒が「最低限、伝えるべきことを伝える」C評価に留まった。自由回答欄にも「うまく説明できなかった」、「分かりやすく伝えられなかった」といった記述が見られるなど、特にジグソー活動で「相

手が知らない情報を説明する」ことに対して、能力の不足を実感している。

生徒の実感としては「聞く」ことに以上に「話す」ことは能動的な活動であり、主体的な態度と技術を要する。つまり、目的をもって、分かりやすく話すことは難しいと感じているものと思われる。

(ウ) 「話し合う」ことについて

83%の生徒が、「考えの発展」のA評価、又は「考えの発見」のB評価で自己評価している。「話す」ことに比べ、「話し合う」ことの方が、技術や能力の不足を補うことができたと考えての結果であろう。授業の様子からも、短いセンテンスの発話、あるいは単語レベルの発話であっても、他のメンバーが言葉を拾い、話し合いが展開する場面があった。また、メンバーの中に話すことが上手な生徒、仕切るのが上手な生徒がいることで、積極的に発言はできなくとも思考は深まったり広がったりしていくと実感した生徒もいたように見受けられる。

(3) 次時以降の学習活動

ア 振り返り

各班で話し合った内容を基にした振り返りと教員による解説を行った。

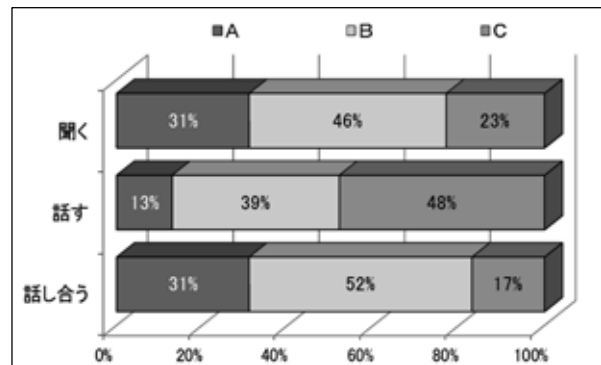
イ アンケート調査

(ア) 質問①：学習を通じた「聞くこと」「話すこと」の変化

71%の生徒が、1回目（エキスパート活動）と2回目（ジグソー活動）の話し合い活動において、自分の「話すこと」「聞くこと」に対する変化を自覚していた。今回の学習活動は、対話する力を身に付ける上で一定の効果があるものと考えられる。

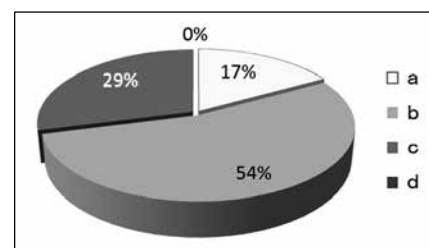
生徒の自由記述を分析すると、「話したことの無い人と話せる」など、メンバーの変化から刺激を受けていたもの、「うまく話せなかった」「相手の目を見ることができなかった」「積極的に伝えられなかった」など、自己の課題をエキスパート活

評価指標に基づく自己評価の結果



質問①: 1回目の話し合いと2回目の話し合いを比べてみて、自分の「聞くこと」と「話すこと」に変化はありましたか。

回答	%
a あった	17%
b まあまああった	54%
c あまりなかった	29%
d なかった	0%



動で認識し、ジグソー活動の際には修正しようと試みていたものなどの記述が見られた。

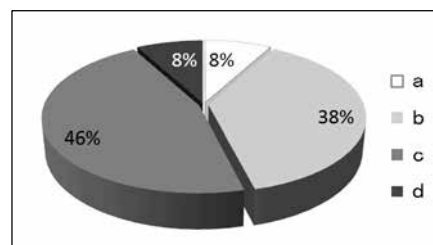
知識構成型ジグソー法を活用することで、相手が知らない情報を伝えなければならぬ状況が生まれ、必然的に伝え方を考えるようになっていったものと思われる。

(イ) 質問②：話し合いの成果

「できた」「まあまあできた」に回答した生徒が 46%に対し、「あまりできなかった」「できなかった」に回答した生徒が 54%と上回った。

質問②:グループでよい案や解決策を出すことができましたか。

回答		%
a	できた	8%
b	まあまあできた	38%
c	あまりできなかった	46%
d	できなかった	8%



ワークシートの記入状況や活動の様子から、一人一人が自らの考えをもって話し合い、自分たちなりに納得のいく解を見いだすことができた生徒がいる一方で、半数以上の生徒が、課題が難しい、意見をまとめることが難しい、特定の人だけの話し合いになってしまい、自分自身が参加できなかったなどと感じている様子がうかがえる。

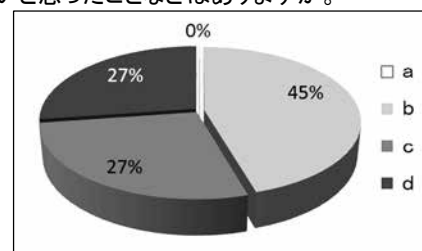
(ウ) 質問③：新たな課題の発見

この質問は、質問②で「できた」「まあまあできた」と回答した生徒を対象とした質問であるが、グループでよい案や解決策を見付けられたと答えた生徒であっても、「ある」は0%、「まあまあある」と答えたのは45%であった。

自由記述を見ると、「話を短くまとめればよかった」、「一時的に代表者を決めればまとまった」「意見をあまり言えない人の意見も、しっかり聞いてみたい」など、話し合いやその後の振り返りを通して、話し合いのスキルに課題意識が生まれている様子にはうかがえるものの、今回の学習活動は、課題を発見する力を身に付けるという点では、十分な成果だ

質問③:もっとこうすればいいかな、こういう工夫もできるかなというアイデア、新しい疑問、知りたいと思ったことなどはありますか。

回答		%
a	ある	0%
b	まあまあある	45%
c	それほどない	27%
d	全くない	27%



感想

○肯定的な感想

- 楽しかった。自分で、しっかり分かりながら進めている感じがした。
- いい体験ができた。もっと、みんなで話し合うような授業をしたい。
- グループを変えながらの話し合いは楽しかった。
- 少し難しかったが、みんなの意見を聞き、しっかり納得した。
- グループでの話し合いの経験は、今後の進路活動にも役に立つのでよかった。
- もっと話し合いをしたかった。自分から切り出すことができず、考えを最短でまとめることができなかったのもったいないことをしたと感じた。次でリベンジ。

●課題

- 1回目(エキスパート活動)は会話が少なく、話し合いに参加できなかった。2回目(ジグソー活動)は特定の人だけが話していた。
- 課題が難しかった。
- 話し合いの時間が短かった。
- 1回目はたくさんの意見が出たけれど、2回目は話せなくなった。
- 積極的になれない人もいた。グループ全体としてはもっと頑張れたのではないかなと思う。

とは言えない。

(エ) 感想

アンケートの最後に、自由に感想を記入する欄を設け、話し合い活動への率直な感想を記入させた。話し合い活動に抵抗感のある生徒がいることも事実であるが、想像以上に興味をもって活動している生徒が多いと感じた。

**(4) 次の検証授業へ向けての反省点と改善点**

ア 反省点①：グループ活動以前の、個人で思考する時間の必要性

エキスパート活動における話し合いを深まりのあるものにするためにも、資料を読み込み、個人で考えをまとめる時間が必要である。理解度が低いまま話し合いに臨むと、自分の意見をもって発言できない上に、他人の意見に安易に同調してしまう。

改善策としては、前時にカードを配布し、自分の考えをまとめさせておくことよいのではないかと考えている。

イ 反省点②：内容・課題の難易度の設定

「課題が難しかった」という記述が複数見られた。核心をつく考えを見だし、活発に話し合っているグループがある一方で、話し合いはおろか、誰も意見を言い出せないグループもあった。オープンエンドな課題に慣れていないということや資料の量と質とが生徒に合っていないということが考えられる。

改善策として、資料については、原文を省略し、現代語訳のみを掲載したり、現代語訳をあらすじにまとめて提示したりするなど、分量を少なくすることが考えられる。また、現代語訳を、平易な表現で掲載するなど、作成資料の文言を易しくすることも考えられる。

ウ 反省点③：時間の設定

「話し合う時間が短かった」という記述が複数見られた。エキスパート活動に時間を掛けすぎて、ジグソー活動の時間が十分取れなかった。

改善策として、資料の内容を前時に確認し、エキスパート活動の時間短縮を図ること、資料に番号を振り（例：A-1）、グループの配置やグループ替えの手順を、板書したり、ICT機器を活用したりし、グループ替えの時間短縮を図ることなどが考えられる。

**(2) 実践事例 2**

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	1
-----	----	-----	------	----	---

**1 単元（題材）名、使用教材**

単元名 古典を通して、現代を探る

教材名 『奥の細道』『旅立ち』 大修館書店 他

**2 単元（題材）の指導目標**

- ・中古から近世までの紀行文や日記文学での旅についての記述を読み、古人にとって「旅」とはどのようなものだったか考察する。
- ・対話を通して、考えを比較・吟味し、よりよい解を導き出す。

- ・導き出した解を基に、現代について考察を深める。

### 3 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く	オ 知識・理解
・グループでの話し合い活動に進んで参加し、自分と他人の考えを比較しながら、よりよい解を見付けようとしている。	・情報や知識を共有していない相手に、分かりやすく伝えている。 ・相手の話に関心を示すと同時に、メモを取りながら聞いている。	・古人にとっての旅の意義について考えを深めている。 ・各時代の旅がどのようなものかについて考えている。 ・現代の旅について考えをめぐらしている。

### 4 単元（題材）の指導と評価の計画

次	学習活動	評価の観点			評価規準 〈評価方法など〉
		関	話聞	知	
第1次	・「旅立ち」を基に、芭蕉の旅への思いについてグループで話し合う。 ・各グループに、資料を配布し各自で内容を確認する。			●	・古人にとっての旅の意義について考えを深めている。 〈記述の確認（ノート）〉
第2次 （本時）	[エキスパート活動] ・前時に配布した資料を基に、資料から読み取れる、その時代の旅についてグループで意見交換を行う。 [ジグソー活動] ・グループで話し合った内容を別のグループの生徒に説明し、内容を共有する。 ・昔の旅と現代の旅の相違点・共通点について、対話を通して解を導き出す。	●	●		・グループでの話し合い活動に進んで参加し、自分と他人の考えを比較しながら、よりよい解を見付けようとしている。 〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉 ・情報や知識を共有していない相手に、分かりやすく伝えている。 〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉 ・相手の話に関心を示すと同時に、メモを取りながら聞いている。 〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉
第3次	[振り返り] ・話し合いの結果を各グループが発表する。 ・班同士による相互評価を行う。 ・活動を振り返るアンケート調査に回答する。			● ●	・各時代の旅がどのようなものかについて考えている。〈記述の分析（ワークシート）〉 ・現代の旅について考えをめぐらしている。 〈記述の分析（ワークシート）〉

配布資料(資料①)

## 5 本時

### (1) 本時の目標

- ・古典作品を通じて、現代を見つめる。
- ・旅の意義について、グループで話し合い、考えを比較・吟味する。
- ・昔の旅と現代の旅の相違点・共通点について、対話を通して考察を深める。

### (2) 配布資料

資料①『伊勢物語（東下り）』・『蜻蛉日記（唐崎の祓え）』、  
資料②『土佐日記（室津の泊まり）』、資料③『平治物語（常葉落ちるる事）』、資料④『十六夜日記（序章）』・『とはすがたり（巻一）』・『雨月物語（浅茅が宿）』・『東海道中膝栗



毛（発端、あらすじ）、資料⑤沢木耕太郎『深夜特急』・『大人の街歩き沖縄（ガイドブック）』

※資料⑤のみ、全員に配布

### (3) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準〈方法〉
導入	5分	・本時の学習の目標と流れを理解する。	・評価指標を配布し、学習の到達目標を確認する。	
展開①	15分	[エキスパート活動] ・グループ別に着席する。 ・配布された資料ごとに、「その時代の旅の意義」について話し合い、考えを深める。	・次のジグソー活動におけるエキスパート活動の意義を生徒一人一人に意識させる。	ア〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉 イ〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉
展開②	25分	[ジグソー活動] ・グループ替えを行う。  ・それぞれ異なる資料でエキスパート活動を行った生徒同士がグループを構成し、資料の説明を行う。 ・「古典と現代の旅の相違点と共通点」について話し合い、考えをまとめる。	・他のメンバーが「何も知らない状態である」ことを意識して説明するよう促す。	ア〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉 イ〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉
まとめ	5分	・振り返りシートで、自己の取組や達成度を自己評価する。		

### (4) 評価指標

	A	B	C
聞く	相手の考えと自分の考えを照らし合わせ、お互いの考えの相違点や共通点を確認しながら聞くことができる。	相手の発言の大事な部分を意識し、メモを取りながら聞くことができる。	相手が話しやすいように、関心を示しながら、積極的に聞くことができる。
話す	共有していない情報を、相手の反応に応じて、言葉、スピード、表情などを調整しながら話すことができる。	共有していない情報の要点を、取捨選択したり強調したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	メモを基に、伝えるべき情報を相手に伝えることができる。
話し合う	お互いの考えを比較対照することで、考えを発展させることができる。	他の人の考えに触れることで、新たな発見をすることができる。	自分が考えたことを、話し合いの場で伝えることができる。

## 6 本時の振り返り

### (1) 前時までの学習活動について

『奥の細道』「旅立ち」の本文を読み、「古人も多く旅に死せるあり」には作者のどのような心情が込められているのかを考えさせた後、資料を配布した。次時の準備として、同じ資料をもつグループごとに資料の確認を行い、各自が資料から読み取った旅の意義や目的についてワークシートに記入した。

### (2) 本時

#### ア エキスパート活動

古典作品等から各時代の旅の様子が分かる部分を抜粋した4種類の資料（資料①から資料④）を基に、各資料のエキスパートグループにおいて、資料から読み取れる旅の意義や

目的について意見の交流を行い、グループとしての意見をまとめる話し合いを行った。

#### イ ジグソー活動

各資料のエキスパートグループメンバーの説明を聞き、ワークシートに記入するとともに、現代の旅に関する資料である資料⑤と比較しながら、古典に見られる旅と現代の旅の共通点と相違点を付箋に書き出し、その付箋をA3判用紙に印刷されたベン図に貼りながら、グループとしての結論をまとめた。

ワークシートの記述を見ると、「昔の旅は危険も多く、情報伝達にも時間がかかったが、今は情報の伝達も速くなり、気軽に旅に出ることができるようになった。」

「昔の旅は困難な状況や苦しみから逃れるために命がけで行っていることが多い。現代の旅は日常を離れリフレッシュするもの。」など、昔の旅は命の危険を伴う、覚悟の必要なものであることに触れているものが多かった。

#### ウ 自己評価

授業の最後に、事前に示した評価指標に基づく自己評価を行った。

「聞く」「話す」については、A又はB評価をしている生徒が、C評価をやや上回る結果となった。「話し合う」の項目においては過半数の生徒がA又はB評価となっている。

教員から見た様子や、次時のアンケート結果に比べ、自己評価はやや厳しい傾向がある。

### (3) 次時以降の学習活動

#### ア 振り返り

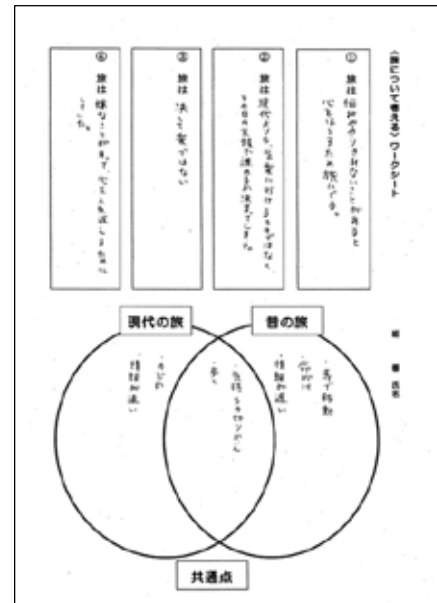
前時を振り返るためのアンケート調査（質問①～④）を行うとともに、各グループによる発表を行った。発表は、模造紙大に拡大したベン図に話し合ったことをまとめさせ、グループごとに、簡易型のポスター発表の形式で行った。

発表後、振り返りのアンケート調査（質問⑤）を行った。

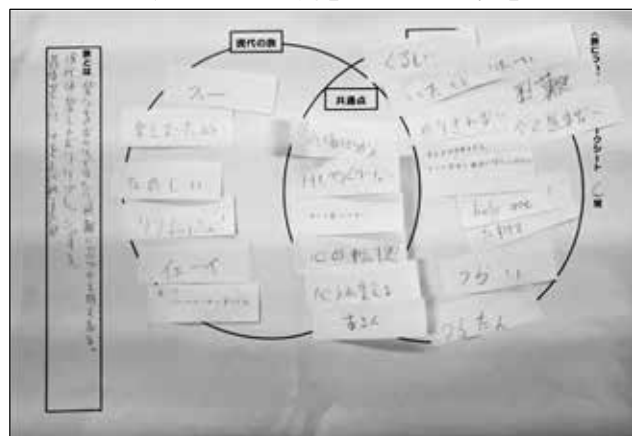
#### イ アンケート調査

(ア) 質問①：学習を通じた「聞くこと」「話すこと」の変化

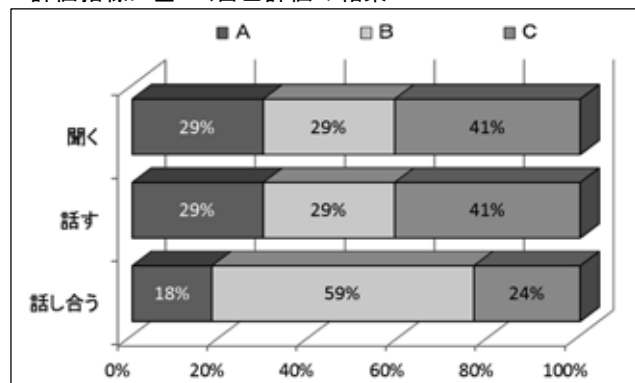
ワークシート記入の様子



ジグソー活動(ベン図に付箋を貼りながら意見をまとめる)



評価指標に基づく自己評価の結果





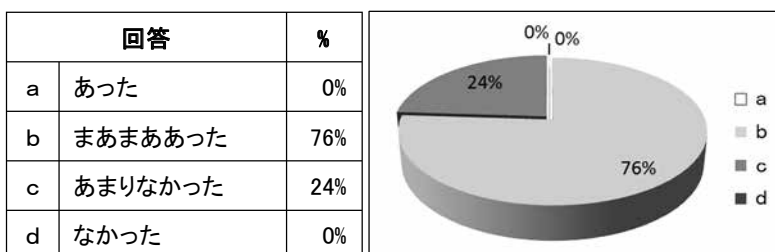
76%の生徒が、1回目(エキスパート活動)と2回目(ジグソー活動)の話合い活動において、自分の「話すこと」「聞くこと」に対する変化を自覚していた。「なかった」とする生徒は0人だった。検証授業1と同様、効果があることがうかがえる。生徒の自由記述には「たくさん意見が出た。」「積極的に話せた。」「(自分の発表に対する)疑問やあまり伝わらなかったことなどが(聞き手から)聞けた。」などがある。

(1) 質問②・③：話合いの成果

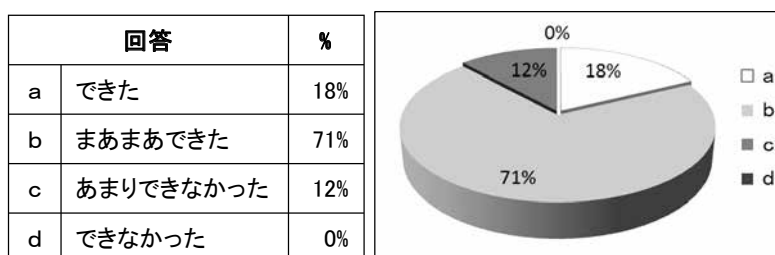
実践事例1では、話合いの成果として「いい案や解決策を見出すことができたか」という質問をしたが、もう少し具体的な質問に変え、話合いの技術と思考の深まりの実感について質問した。

質問②・③の結果を見ると「あまりできなかった」「できなかった」と答えている生徒は評価指標の「話す」の自己評価をCとしていた。話すことへの苦手意識から、このような回答

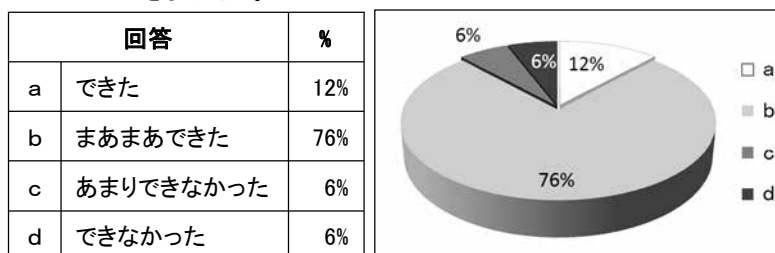
質問①:1回目の話合いと2回目の話合いを比べてみて、自分の「聞くこと」と「話すこと」に変化はありましたか。



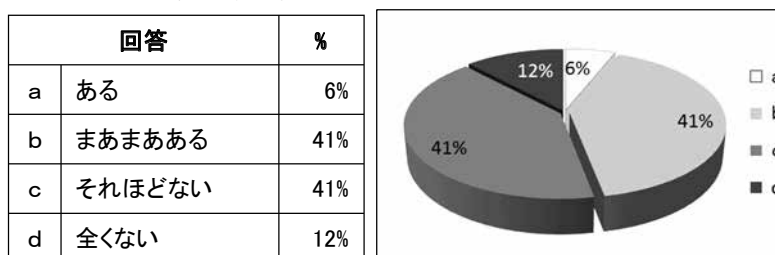
質問②:グループの話合いで、互いに協力し合うことはできましたか。(例:話題を提示したり、問いかけをして展開を助けたりするなど)



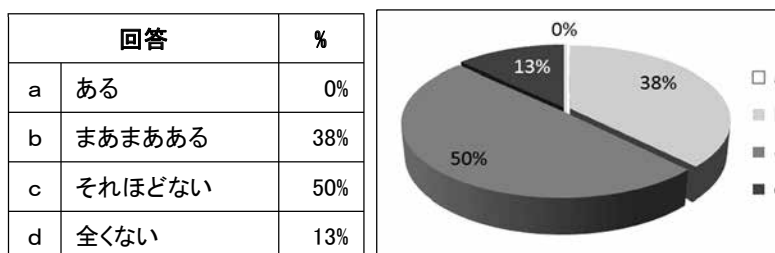
質問③:二度目の話合いを通じて、考えを深めたり、発展させたりすることができましたか。



質問④:話合いを通じて、新しく抱いた疑問や、もっと知りたいと思ったことなどはありますか。



質問⑤:グループ発表のために話し合い、他のグループの発表を聞くことを通じて、新しく抱いた疑問や、もっと知りたいと思ったことなどはありますか。



となっているようである。

(ウ) 新たな課題の発見

質問②・③に比べ、否定的な回答が多い。話し合い自体はうまくいったと感じ、思考の深まりを感じていても、新たな課題の発見に至るほど、興味・関心や主体性を高めるには至らない生徒が多いということである。

今回は、知識構成型ジグソー法のクロストークに当たる発表を行い、その後改めてアンケート調査を行った（質問⑤）が、むしろ、否定的な回答が増えた。

**(4) 課題及び改善策**

ア 資料及び課題設定

今回の自由意見では「課題が難しかった」という意見はなかったが、様々な意見が出やすいよう、各資料の内容を多めに作成し、前時に読み取りの時間を設定した。また、話し合い活動を活性化させ、意見をまとめやすくするために、拡大したベン図に付箋を付けながら行うよう指示した。

アンケートの結果から見ると、話し合い自体には充実感をもっているものの、話し合いが課題意識の向上につながっていない。資料を読み、資料の内容を人に伝え合い、まとめて発表するという活動自体に満足してしまっているものと思われる。

改善策としては、資料の内容と分量、課題設定について、生徒の実態に応じて適切な分量・難易度を見極める必要があり、生徒・教員双方に経験の積み上げが必要である。

イ 振り返り

今回はクロストークに当たるグループ発表を行い、各グループの発表を相互に評価する活動を行い、振り返りのアンケートを行うという流れで授業を行ったが、生徒の課題意識の向上につながっていない。振り返りの活動の仕方を見直す必要がある。

改善策としては、グループ発表の後に、意見交換する時間を取るとよいのではないかと考えている。振り返りにおいても対話を行い、対話を通じて新たな気づきや興味・関心の高まりを促し、課題意識の向上につなげることができないのではないかとと思われる。

**(3) 実践事例 3**

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	1
-----	----	-----	------	----	---

**1 単元（題材）名、使用教材**

単元名 古典を通して、現代を探る  
教材 『土佐日記』『門出』他

**2 単元（題材）の指導目標**

- ・ 様々な時代に書かれた、第三者に仮託した文章等を読み、仮託した意図や時代による意図の違いを考察する。
- ・ 対話を通して、相互の考えを比較・吟味し、よりよい解を導き出す。
- ・ 導き出した解を基に、現代について考察を深める。

### 3 単元の評価基準

ア 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く	オ 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの話し合い活動に積極的に参加している。</li> <li>お互いの意見を比較しながら、よりよい解を見付けようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報や知識を共有していない相手に、自分の情報を分かりやすく伝えている。</li> <li>相手の話に関心を示し、メモを取りながら聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三者（他者）として文章を書くことについて考えている。</li> <li>古代と現代における、仮託することの違いについて考えをめぐらせている。</li> </ul>

### 4 単元（題材）の指導と評価の計画

次	学習活動	評価の観点			評価規準 〈評価方法など〉
		関	話聞	知	
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>『土佐日記』『門出』を読み、第三者に仮託した文章であることを学ぶ。</li> <li>各グループに配布された資料を基に、第三者に仮託する（他者になる）とはどういうことかを各自で考える。</li> </ul>			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三者（他者）として文章を書くことについて考えている。</li> <li>〈記述の確認（ノート）〉</li> </ul>
第2次 （本時）	<p>[エキスパート活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前次での考察を基に、第三者（他者）になることの作者の意図をグループで意見交換する。</li> </ul> <p>[ジグソー活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合った意見を別のグループの生徒に説明し、内容を共有する。</li> <li>共有した内容を基に第三者に仮託することの意図を、対話を通して導き出す。</li> <li>各グループ活動を振り返る。</li> </ul>	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの意見を比較しながら、よりよい解を見付けようとしている。</li> <li>〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉</li> <li>情報や知識を共有していない相手に、自分の情報を分かりやすく伝えている。</li> <li>〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉</li> <li>相手の話に関心を示し、メモを取りながら聞いている。</li> <li>〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉</li> </ul>
第3次	<p>[振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前次の活動を基にグループの発表を行う。</li> <li>他のグループの発表内容を受けて、自己のグループの振り返りを行う。</li> <li>新たな考えや意見を発表し、その内容について比較する。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代と現代の仮託することの違いについて考えをめぐらせている。</li> <li>〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉</li> <li>グループでの話し合い活動に積極的に参加している。</li> <li>〈行動の観察〉</li> </ul>

## 5 本時

### (1) 本時の目標

- グループで話し合い、考えを比較・吟味する。
- 第三者に仮託して文を書くことに関する作者の意図について考察する。

### (2) 配布資料

資料①『伊勢物語（107段）』、資料②百人一首「来ぬ人を」、資料③太宰治「女生徒」、資料④EXILE「Ti Amo」（歌詞）

各資料の右下に、エキスパートグループ・ジグソーグループそれぞれの所属が分

### 配布資料（資料①）



かるように記号を記載し、事前に、各自がどのように動けばよいのか理解させる。

### (3) 本時の展開（第二次）

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（方法）
導入	5分	・本時の学習の目標と流れを理解する。	・評価指標を配布し、学習の到達目標を確認させる。	
展開①	15分	[エキスパート活動] ・グループ別に着席する。 ・配布された資料ごとに、「第三者に仮託する意図」について話し合い、考えを深める。	・次のジグソー活動におけるエキスパート活動の意義を生徒一人一人に意識させる。	ア〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉 イ〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉
展開②	24分	[ジグソー活動] ・グループ替えを行う。 ・それぞれ異なる資料でエキスパート活動を行った生徒同士がグループを構成し、資料の説明を行う。 ・「第三者に仮託する意図」について話し合い、考えをまとめる。 ・発表	・新グループのメンバーは前グループの意見を知らないことを意識するよう促す。 ・幅広く活動の成果を共有できるよう留意する。	ア〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉 イ〈行動の観察、記述の分析（ワークシート）〉
まとめ	6分	・振り返りシートで、自己の取組や達成度を自己評価する。		

### (4) 評価指標

	A	B	C
聞く	相手の考えと自分の考えを照らし合わせ、お互いの考えの相違点や共通点を確認しながら聞くことができる。	相手の発言の大事な部分を意識し、メモを取りながら聞くことができる。	相手が話しやすいように、関心を示しながら、積極的に聞くことができる。
話す	共有していない情報を、相手の反応に応じて、言葉、スピード、表情などを調整しながら話すことができる。	共有していない情報の要点を、取捨選択したり強調したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	メモを基に、伝えるべき情報を相手に伝えることができる。
話し合う	お互いの考えを比較対照することで、考えを発展させることができる。	他の人の考えに触れることで、新たな発見をすることができる。	自分が考えたことを、話し合いの場で伝えることができる。

## 6 本時の振り返り

### (1) 前時までの学習活動について

『土佐日記』の「門出」を読み、第三者に仮託した文章であることを確認した後、『土佐日記』以外の「第三者に仮託した文章・作品」の一部を抜粋した四種類の資料を各自で読み、「作者が第三者に仮託する（なりきる）意図」を考えた。

### (2) 本時（第二次）

第二次（本時）は、前時においてそれぞれが考えた意見を基に、ジグソー法を用いて班で意見を集約させた。

#### ア エキスパート活動

作者が第三者に仮託して書いた、様々な時代の様々な種類の作品から抜粋した4種類の

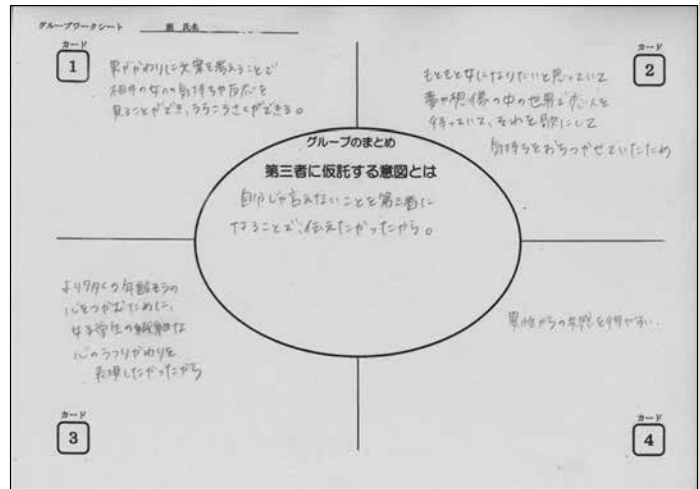
資料を作成し、資料①から資料④の各資料のグループで、それぞれの資料から読み取れる作者の意図について意見の交流を行い、グループとしての意見をまとめる話し合いを行った。

イ ジグソー活動

各資料のエキスパートグループメンバーの説明を聞き、ワークシートに記入するとともに、第三者に仮託して作品を書く意図についてグループとしての結論をまとめた。

ワークシートの記述を見ると、「自分では言えないことを、第三者になることで伝えたかったから。」「自分とは違う視点に立って、客観的に物事を書くことで、多くの共感を得ることができると考えたから。」など、書き手と語り手を切り離すことで、創作の幅が広がることに触れているものが多かった。

ジグソー活動(Four Square Writing Methodの思考ツールを応用したワークシートを活用)

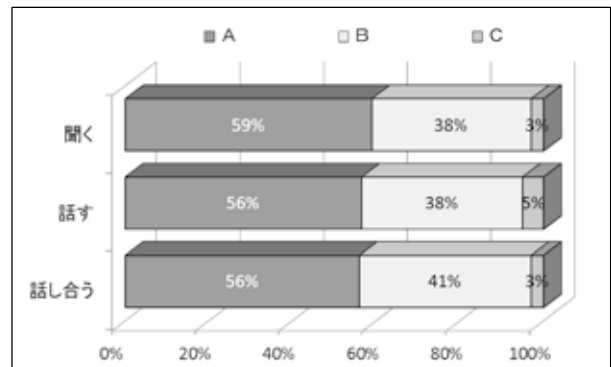


ウ 自己評価

ワークシートとは別に、評価指標だけを載せたプリントを用意した。これを授業の導入時に確認し、学習の見通しをもたせるとともに、学習の最後に自己評価を行った。

全ての項目で半数以上がA評価で、B評価と合わせると9割以上に上る。今回は、事前に評価指標を示すとともに、生徒と教員が目標を共有できるよう、指標の意味を説明し、理解させてから学習活動を始めたことにより、生徒が自身の行動や考え方に対して具体的に見通しをもって行動できたものと思われる。

評価指標に基づく自己評価の結果



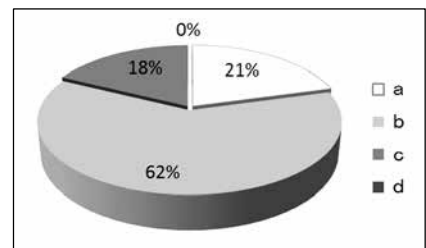
(3) 次時以降の学習活動について

ア 振り返り I

第3次では、クロストークに当たる各グループの発表後、アンケート用紙を用いてグループ活動全体の振り返りを行った。

質問①: 1回目の話し合いと2回目の話し合いを比べてみて、自分の「聞くこと」と「話すこと」に変化はありましたか。

回答		%
a	あった	21%
b	まあまああった	62%
c	あまりなかった	18%
d	なかった	0%



イ アンケート調査 I

(ア) 質問①から質問③: 「聞くこと」「話すこと」の変化と話し合いの成果

いずれも、「b まあまああった(できた)」が半数を超え、「a あった(できた)」をあわせると8割以上に達する。多くの生徒が、今回の学習活動に対して充実感を感じている様子が見えてくる。

(イ) 質問④：新たな課題の発見（1回目）

実践事例2と同様に、否定的な回答が半数以上を占めている。意見記述から、「課題設定が難しく意見をまとめることに終始してしまった」、「答えのないものに対して話し合いから意見をまとめることへの不安」な

どが見られ、オープンエンドな問いに不慣れであるため、活動そのものをしっかり行うことが目的化し、その先へ意識を向けることができている様子が見えてくる。話し合い活動が充実することと、課題意識の向上は直接つながるわけではなく、更なる思考活動を行うことが必要であるものと思われる。

ウ 振り返りⅡ

実践事例2の反省を踏まえ、今回は振り返りの活動を工夫した。

各グループの発表後、各グループの発表内容を踏まえ、改めて「当時と現代の仮託することの違い」について考えるよう促し、グループでの意見の交流・発表を行った。

エ アンケート調査Ⅱ

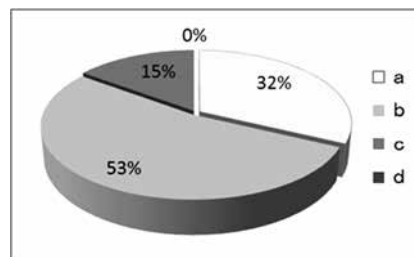
(ア) 質問⑤：新たな課題の発見（2回目）

肯定的な回答が8割という結果となった。

各グループの2度目の発表後、自己のグループの意見に対する振り返りを行わせた。その際、ど

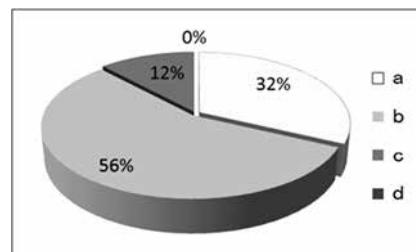
質問②：グループの話し合いで、互いに協力し合うことはできましたか。  
(例：話題を提示したり、問いかけをして展開を助けたりするなど)

回答		%
a	できた	32%
b	まあまあできた	53%
c	あまりできなかった	15%
d	できなかった	0%



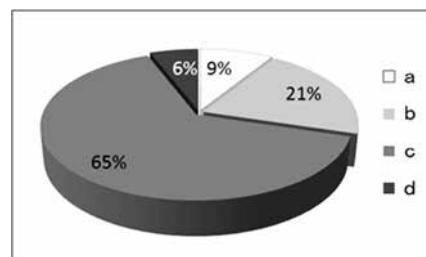
質問③：二度目の話し合いを通じて、考えを深めたり、発展させたりすることができましたか。

回答		%
a	できた	32%
b	まあまあできた	56%
c	あまりできなかった	12%
d	できなかった	0%



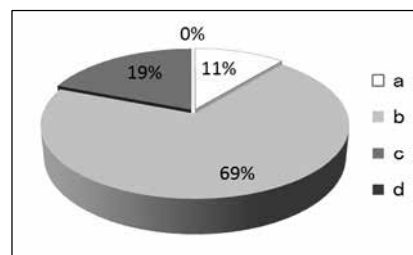
質問④：話し合いを通じて、新しく抱いた疑問や、もっと知りたいと思ったことなどはありますか。

回答		%
a	ある	9%
b	まあまあある	21%
c	それほどない	65%
d	全くない	6%



質問⑤：話し合いを通じて、新しく抱いた疑問や、もっと知りたいと思ったことなどはありますか。

回答		%
a	ある	11%
b	まあまあある	69%
c	それほどない	19%
d	全くない	0%



のグループの意見のどの点に共感できたか等を考えさせ、新たな疑問が生じたかどうかの点の絞って振り返りを行った。

実践事例2や今回のような課題の場合、各グループの意見に差が現れにくい。そのため、単純に発表（クロストーク）を行い、各自で振り返りを行っても、課題意識を高めるには至らない。今回は、教員が別の問いを発して、再び対話を行い、発表と発表に対する評価を行ったことにより、それまで漠然としていた疑問が明確なものとなったのではないかと思われる。

#### (イ) 自由記述（新たな課題・疑問）

右の表は、質問⑤への回答の際に具体的な内容を記述させたものである。教員が発した新たな問いに対するものもあるが、グループ活動を通じてなんとなく疑問に感じていたことが、振り返りによって言語化されたものが多い。

#### 新たな課題・疑問(具体的な記述)

- なぜ異性の目線で書くのか、もっと深く突き詰めたい。
- どうすればもっと相手の共感を得られるのか。
- 今と昔とで読者の捉え方の違いを知りたい。
- もっと多くの資料を読むことでまた違う、深い結論が出るのではないか。
- 時代は違っても、やっていることは同じであるので、他の作品にも興味がわいた。
- 昔と現代との共通点を知りたい。
- 新しい道を作ったその後の歌の世界を知りたい。

### (4) 課題と改善策

#### ア 課題の難易度

「第三者への仮託」という生徒にとっては聞き慣れないことに関する課題であった。課題設定の際の用語の選択として、「第三者になりきる（または演じる）」や「第三者へのなりすまし」など、生徒の実態に合わせて分かりやすい言葉にするなどの工夫が必要である。

#### イ 質問する力

アンケートに記入された生徒の意見を見ると、自分の説明に相手が納得しているかどうか不安であったことから、対話が一方的になってしまったと思われるものが散見された。

対話は、聞き手と話し手の双方向のコミュニケーションである。今回は、話すことと聞くことをつなぐを生徒自身に気付かせるまでには至らなかった。自分が知りたいこと、理解したいことを明確にし、相手をもっと話したくなるよう聞くことが、対話を深めていくことにつながる。今後は質問する力を高める取組を行うことが必要だと感じた。

## VI 研究の成果

### 1 仮説の検証

今回の研究では、「話すこと・聞くこと」の単元として「古典を通じて、現代を探る」というテーマを設定し、全ての実践で「知識構成型ジグソー法」を用いて、もっている情報に差がある者がグループを構成して課題解決を行う実践を行った。また、課題を発見する力を育む方策として、学習過程の振り返りと評価を行い、次への目標と目標達成に向けた課題意識をもたせる実践を行った。実践事例によって得たデータを基に、仮説を検証する。

#### (1) 仮説1 自己の考えを発信するとともに相手の意見を聞き、よりよい解を求めて合意を図る学習活動を行うことで、対話する力を身に付けることができる。

## ア 知識構成型ジグソー法の効果

エキスパート活動とジグソー活動を比べ、自分の『聞くこと』と『話すこと』に変化があったかを聞いたアンケート調査の結果を見ると、実践事例1では71%、実践事例2では76%、実践事例3では83パーセントと、多くの生徒が自分の「話すこと」「聞くこと」に対する変化を自覚している様子がうかがえる。

メンバーの変化が刺激になっていることや、エキスパート活動を通して自分の取組を分析し、ジグソー活動の際にはその反省を生かしたいという意欲が喚起されたこと、知らない情報を伝え合う中で「聞くこと」「話すこと」を必然的に考えざるを得なかったことなどが要因として考えられる。

また、話合いの成果に関するアンケート調査は、実践事例1では「グループでいい案や解決策を出すことができたか」という質問に対して、肯定的な回答が46%、否定的な回答が54%であった。質問が抽象的で答えにくかったものと考え、実践事例2と3では質問を変え「協力し合えたか」「ジグソー活動で考えの深まりや発展はあったか」を回答させたところいずれも8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。

自己評価でも、全ての事例と項目で半数以上の生徒がB評価以上であることを合わせて考えると、グループとして最適解を出せたのかを判断することはできないが、充実した話合いとなった手ごたえを感じていることが分かる。

## イ 仮説1の検証

上記アのとおり、自己の考えを発信するとともに相手の意見を聞き、よりよい解を求めて合意を図る学習活動を行うことにより、生徒の対話する力を高めることができると考えられる。

## (2) 仮説2 自己の思考の流れを振り返り、評価する学習活動を行うことで、新たな課題を発見する力を身に付けることができる。

### ア 思考の流れを振り返り評価する活動の効果

実践事例2、3においては、知識構成型ジグソー法のクロストークの活動に当たる、グループ発表とまとめの授業を行った。

実践事例2では、グループ発表後に新たな課題発見ができたかを問うアンケートを実施したが、肯定的な回答は4割にとどまった。

実践事例3では、グループ発表後に、改めて発表に対する評価と対話の機会を設け、活動の前後で新たな課題の発見ができたかを問うアンケートを実施している。その結果、活動前の肯定的な回答が3割であったのに対して活動後の肯定的な回答は8割と大幅に上昇した。

教員も生徒も、オープンエンドな課題をチームで解決する学習に慣れていないため、各グループの発表内容も大きな差が出るとは考えにくく、発表に対して活発な質疑応答ができる状況にもなりにくい。したがって、実践事例2の発表活動は、本来のクロストークのねらいを達成するには至らなかったものと思われる。実践事例3では、そのことを踏まえ、教員が新たな問いを発し、再度グループ内での対話の機会を作ったことで、漠然としていた疑問や興味・関心が明確化したものと思われる。



## イ 仮説2の検証

上記アから、自己の思考の流れを振り返り評価する活動を行うことで、新たな課題を発見する力を身に付けることに、一定程度の効果が認められると考えられる。

## VII 今後の課題

### 1 計画的な授業構想

本研究では、対話の力と新たな課題を発見する力を身に付けるための方策として、知識構成型ジグソー法や、事前に評価指標を示し、学習活動後に振り返り、自己評価する活動を取り入れ、授業を実践した。確かな手応えもある一方、課題も浮かび上がってきた。

#### (1) 課題設定及び資料作成

課題解決型の授業を行う上で重要なことは、課題設定の適切さである。21世紀型能力を構成する「実践力」を育むためには、生徒にとって真に解決すべき課題として認識されていることが重要であるが、本研究では課題の適切さについては検証できていない。

また、どのような資料（教材）をどのように提示するかも、常に課題としてつきまどっていた。本研究の実践事例の中では、平易な文言でコンパクトな分量の資料作りを模索したが、資料の適切さについては検証できていない。

#### (2) 評価

本研究では、仮説で身に付けることができるであろうと考えた対話の力も課題を発見する力も、アンケート調査と事前に示した評価指標に基づく自己評価によって身に付いているものと結論付けている。

評価指標を用いた評価手法は、ルーブリックによる評価の手法の一部を、現状でもすぐに導入できるよう簡易的に用いているものであるが、指標の文言の適切さや教員と生徒との共有、教員による見取りの方法などについて研究を進める必要がある。

#### (3) 聞く力

「対話」という行為は「話すこと」「聞くこと」のそれぞれの要素が相まって深まり、それがよりよい解につながっていくと考えられる。本研究においても、特に「聞く力」を生徒が十分身に付けていないのではないかと考え、また、よりよい解を導くための対話においては質問する力など「主体的に聞く」ことが重要であると考えた。そこで、評価指標を作成する際に、「聞く」と「話す」を分けて作成したが、(2)の評価の項でも述べたように、十分検証できていない。

#### (4) 継続的な取組

知識構成型ジグソー法のみならず、主体的・協働的な学習に対する慣れが必要である。生徒の現状の中でも述べたように、生徒は、授業に対して受身になりがちで、主体的・協働的に課題を解決するという授業に慣れていない。教員も教えることは慣れているが、生徒の主体的な活動をデザインし、コントロールすることには慣れていない。

本研究では、3回の実践の中で様々な工夫を重ね、生徒の動きや反応に変化が生まれてきたことは前述のとおりである。継続的に取り組むことで、生徒も教員もより効果的な実践ができるようになるものと考えている。

## 2 国語科の果たすべき役割

現行の学習指導要領は、全ての教科・科目、総合的な学習の時間において言語活動の充実を求めており、国語科にはその中核的な役割が期待されている。また、現在、中央教育審議会では、「言語能力の向上に関する特別チーム」が設置され、国語科及び外国語科の学習を通じた言語能力の育成について議論されている。今後ますます、言語の教育を行う教科として、国語科の役割は重要となっていくものと思われる。

本報告書の冒頭で取り上げた「教育課程企画特別部会論点整理」においては、国語科の現状として、教材の読み取りに偏重していること、話合いや論述の学習が低調であること、伝統的な言語文化を現代に生かそうという観点が弱いこと、情報活用能力という観点の学習を取り入れる必要があることなどが示されているが、これらは以前から指摘されていた高等学校国語の課題である。

本研究では、これらの現状を踏まえた実現可能な実践のモデルとして、「話すこと・聞くこと」の単元指導計画において、伝統的な言語文化である古典を現代に生かすとともに情報活用能力という観点から作成した教材を用いて話合い活動を行う授業モデルを示した。

我々、国語科の教員は、現状に対する指摘を真摯に受け止めつつ、これからの教育における国語科の役割について自覚し、主体的に取り組んでいく必要があると考えている。

# 平成27年度 教育研究員名簿

## 高等学校・国語

学校名	課程	職名	氏名
都立向丘高等学校	全日制	教諭	高橋 幸平
都立大森高等学校	定時制	教諭	◎ 小川 一美
都立豊多摩高等学校	全日制	教諭	遠藤 圭
都立農芸高等学校	定時制	主任教諭	鷹取 満
都立大山高等学校	全日制	主任教諭	村岡 麗子
都立八王子拓真高等学校	定時制	主任教諭	石山 晃一
都立久留米西高等学校	全日制	主任教諭	矢野 寛
都立立川高等学校	定時制	教諭	赤塚 翔

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課  
指導主事 小林 靖

平成 27 年度  
教育研究員研究報告書

高等学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 27 年度第 197 号〕  
平成 28 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 正和商事株式会社

リサイクル適性(B)

この印刷物は、紙へ  
リサイクルできます。